

学年	授業時数	教科	科目	教科書名	副教材名
高3 (総合進学)	2	社会科	地理A	『高校学校 新地理A』 (帝国書院)	『基本地図帳』 (二宮書店)

### 1. 授業のねらい

現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。地球環境と人間生活の関係を、教科書・地図帳などを利用し、科学的に考察する能力を養う。

### 2. 授業のすすめ方

主に地誌について授業を行う。したがって世界の各地域について学んで行くことになる。教材の教科書・地図帳の他、プリントや電子黒板などを活用し、映像などもなるべく取り入れて進めたいと考えている。また、白地図などの作業も大切であり、こうした作業や課題を通じて授業内容の理解を深められるようにする。

### 3. 学習上の留意点

ほとんどの生徒にとって中学生の時以来の地理の授業となるため、中学で学習した世界地理の発展的学習につながり、取り組みやすいことから、主に地誌を扱う。また、地理は気候や地形だけでなく、民族や宗教、産業など多岐に渡って学ぶことのできる科目である。グローバル化が進む現代において、世界の基本情報にもつながる内容を学ぶことは意義があると言える。したがって「勉強」であると同時に、今後の人生において「有用」な科目であるという意識を持って取り組んで欲しい。最後に、「地理」は地理歴史科の科目であり、高校では文系科目で、理系の人にとっては関係のない科目だと思いかも知れないが、大学においては、本学地理学科では社会、地理歴史以外に、理科の教員免許の取得ができ、東京都立大学では都市環境学部に理系として地理環境学科があり、さらにかつて東京大学では理学部に地理学科が置かれていたことを付言しておく。

### 4. 教科書・副教材

<教科書> 『高校学校新地理A』 (帝国書院)

<副教材> 『基本地図帳』 (二宮書店)

### 5. 評価方法

- (1) 定期試験…定期考査3回 (100点×3回) 計300点
- (2) 平常点…1学期20点+2学期10点 計30点
- (3) ノート(プリント)提出・課題提出などについてはその都度発表する

### 6. 定期考査

授業で扱った事項、試験前に指定した範囲からの出題の他、応用・発展・時事問題を出题することもある。

7. 指導計画

期	月	単元名・学習項目	評価方法	到達目標
一 学 期	4	1部 世界の諸地域の姿と地球的課題  3章 世界の諸地域の生活・文化  1節 中国の生活・文化	課題など	中国の自然環境、歴史と文化、人口、農業、資源・環境問題、都市と経済格差などについて理解する。  韓国の自然環境、生活・文化と歴史、産業などについて理解する。
	5	2節 韓国の生活・文化  3節 東南アジアの生活・文化		東南アジアの自然環境、歴史と民族、農業、工業、経済、生活などについて理解する。  南アジアの自然環境、歩みとヒンドゥー教、産業などについて理解する。
		4節 南アジアの生活・文化		中央アジア・西アジア・北アフリカの自然環境、歴史、ムスリムの生活、石油資源などについて理解する。
	6	5節 中央アジア・西アジア・北アフリカの生活・文化  6節 サハラ以南のアフリカの生活・文化		中間考査
		7節 ヨーロッパの生活・文化	課題など	ヨーロッパの自然環境、歩み、文化、ヨーロッパ統合、農業、工業、EU 拡大の影響と課題などについて理解する。
	7	8節 ロシアの生活・文化	期末考査	ロシアの自然環境、歴史、文化、産業などについて理解する。
	8	夏季休業		
	二 学 期	9	9節 アングロアメリカの生活・文化	基礎学力到達度テスト
10		10節 ラテンアメリカの生活・文化	課題など	ラテンアメリカの自然環境、文化、農業、工業などについて理解する。
11		11節 オーストラリアの生活・文化		オーストラリアの自然環境、結びつき、産業などについて理解する
12		冬季休業	期末考査	

※理解度やその他の都合により省略や前後することもありうる。